

新型コロナウイルス感染症に対する大学の対応と対策

愛媛大学 学生会員 ○田村 誠志郎 愛媛大学 フェロー 森 伸一郎
愛媛大学 学生会員 佐古 昇大 愛媛大学 学生会員 江見 和泰

1. はじめに

2019年11月22日に中国武漢市で初めて検出された新興感染症は、その後、中国大陆で拡大、世界各地にも伝染した。日本でも国内感染者が現れた後、2020年1月28日に「新型コロナウイルス感染症」と政令で命名され、これを契機として日本でも対応が始まった。同年1月31日に世界保健機関（WHO）は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言し、同年3月11日、世界的な感染拡大（パンデミック）を宣言した。WHOのCovid-19 Situation Report-95によれば、2020年4月24日現在で、世界の感染者数は総計2,626,321人、一日当たり増加数81,529、死者数は総計181,938人、一日当たり増加数6,260人となっており、事態は進行中である。感染拡大防止の国内では一部地域に緊急事態宣言が発令され、全国的に不要不急の外出を控えるように指示が出されている。新型コロナウイルスは2019年12月から約半年経つ現在まで猛威を振るっている。本論文ではこのような状況下で大学という教育機関において、どのような対応や対策が行われているかを示す。

2. 調査対象とその調査方法

調査対象は全国に86ある国立大学を選定した。調査項目は、大学入試（個別2次試験）、卒業式、入学式、新学期の授業についての対応とする。調査方法はインターネット検索（検索エンジンはGoogle）とした。検索キーワードは各大学名とCovid-19、もしくは新型コロナ、コロナなどの感染症名と卒業式や入学式、授業の調査項目との組み合わせとする。検索結果として出た各大学のHPからコロナウイルス感染症に対する各大学の対応等を調査する。

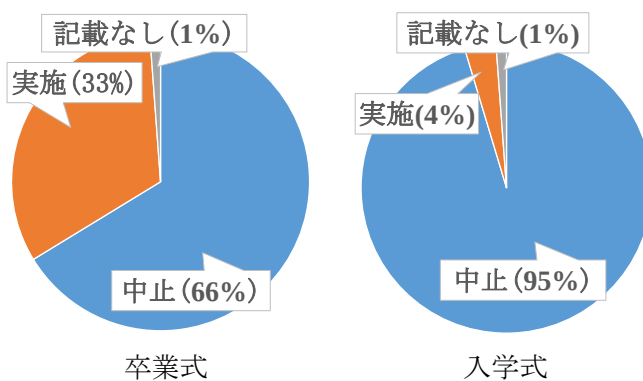
3. 調査結果

国立86大学の受験生への対応は、前期日程についてはどの大学でも行われたが、後期日程については、北海道大学、北海道教育大学、北見工业大学、高知大学の4大学は試験を中止とし、センター試験の結果を合否に用いた。厚生労働省が3月1日に「新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために」として集団感染の共通点を明らかにして、3月18日には総理大臣官邸が後に「3つの密」になる条件を避けるよう注意喚起した。後期日程の個別2次試験を実施した77大学すべてにおいて新型コロナウイルス感染症に罹患した者の受験は認められなかったが、受験申込みをしていた罹患学生への特別措置をとったのは6大学のみであった。

また、後期日程の個別2次試験を実施した77大学の内63大学は試験時のマスク着用を認め、33大学は試験を行う教室の出入り口に消毒用アルコール液を設置した。また、実施したうちの5大学は合否の発表方法について、大学構内での掲示を中止して大学HPでの掲示へと変更した。

図-1に大学の卒業式と入学式の実施・中止の状況を示す。

卒業式は86大学の内、57（66%）で中止、28（33%）で実施した。ただし、卒業式を実施した大学も感染拡大を防止するために、(1)会場への入場人数の制限、(2)マスク着用、(3)37.5℃以上の発熱や風邪の症状がある場合の参加禁止、(4)会場に消毒用アルコールの設置、(5)咳エチケットに関する注意喚起を行う等の種々の



出典：各大学のホームページによる

図-1 国立大学の卒業式と入学式の実施状況

対策を設けた。図-2 に卒業式を実施した時の対策方法の割合を示す。対策の種類をここでは5種類に分類したが、大学で採用している対策は会場への入場人数の制限が最も多かった。また、卒業式を実施した国立大学の中でも弘前大学と奈良教育大学は上記5つの対策を全て実施した。

入学式は86大学の内、82(95%)が中止、3(4%)が分散・縮小（学部等で会場を分散、入場者の人数縮小等の対策）して実施し、通常通りに実施した大学は皆無であった。

図-3 に大学の授業方法の変更の有無と変更した方法の状況（2020年4月23日時点）を示す。国立大学86のうち82大学は授業の開始を延期した。文部科学省の通知もあり、延期したこの82大学は授業方式を対面授業から非同期動画配信や同期型（リアルタイム・オンライン）動画での遠隔授業、資料配布のみといった授業方法に切り替えて授業を再開した。授業方法を資料配布のみとしたIoTに頼らない方法を取る大学が5大学であった。これは、PCやスマートフォンを持っていない学生、Wi-Fi環境が整っていない学生、教員の遠隔授業に対する不慣れ等に配慮したものと推察される。遠隔授業の方法の種類は、ここでは6種類に分類した。

図-4 に各大学がとった授業方法の種類数を示す。1つの大学で採用している方法の種類数は1つが最も多く、次いで2つが最も多かった。およそ半数の国立大学がオンライン授業を取り入れているのに対して、資料配布のみで対応するところもあり、対応能力に差が現れている。

図-4 に各大学がとった授業方法の種類数を示す。1つの大学で採用している方法の種類数は1つが

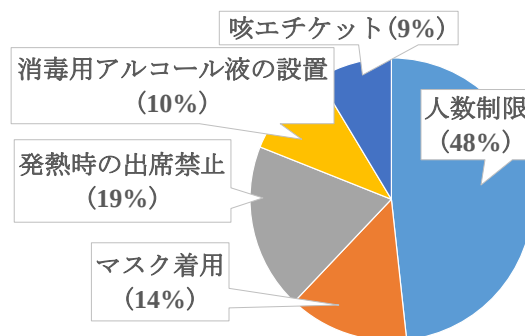
最も多く、次いで2つが最も多かった。およそ半数の国立大学がオンライン授業を取り入れているのに対して、資料配布のみで対応するところもあり、対応能力に差が現れている。

4. 結論

感染者の多い地域にある国立大学では、感染拡大を防ぐためにほかの地域の大学に比べて早く対策が行われた。北海道では7つの国立大学の内、3大学が後期日程の個別2次試験を中止にした。卒業式をはじめとする事前に予定していた行事等を中止とする大学が多く、実際に行った場合でも感染拡大を防ぐために対策を複数種類設けていた。4月以降になると入学式や健康診断などは、大人数が密閉空間に密接して密集するとして中止したり、授業は開始が遅れ、授業の方法はリアルタイムオンライン方式から資料配布方式まで対応が分かれた。

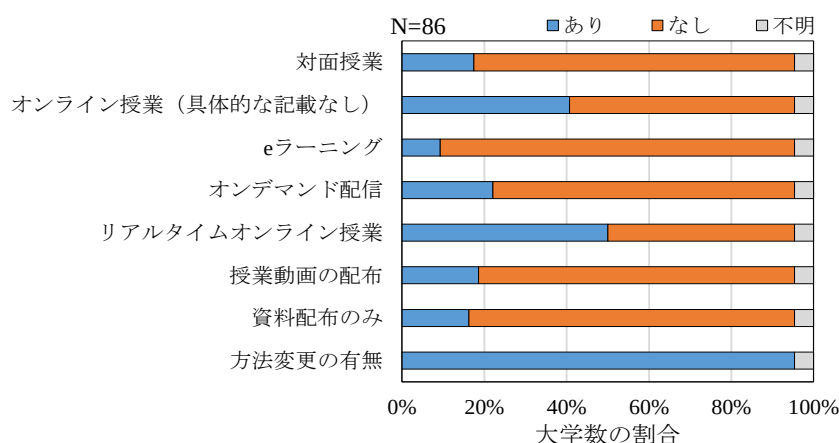
謝辞：調査を行ううえで、愛媛大学地震工学研究室の高岡真実氏、谷本丞氏、平田靖明氏、森本大貴氏、吉田一貴氏に協力していただきました。記して謝意を表します。

参考文献 1) 86大学のホームページ。2)厚生労働省：<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000601720.pdf>



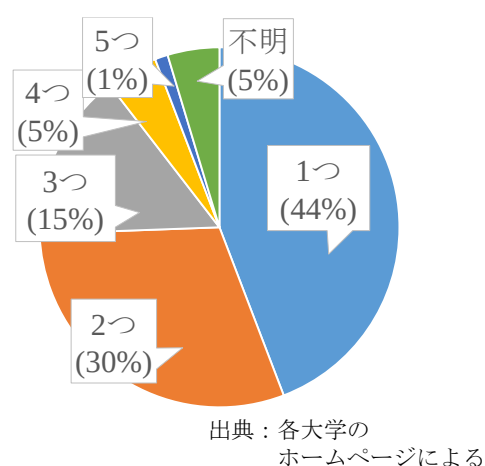
出典：各大学のホームページによる

図-2 卒業式実施時の対策



出典：各大学のホームページによる

図-3 各大学の授業形式の変更の有無と変更内容



出典：各大学のホームページによる

図-4 各大学における授業方法の種類数